

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 12月2日は、高気圧が日本の東に移動し、日本海北部に低気圧が進む。
- 3日は、低気圧が発達しながらサハリン付近に進み、低気圧からのびる前線が北日本付近を通過する。日本海には気圧の谷が残る。
- 4日から6日にかけて、大陸の高気圧が日本付近に張り出すが、日本海が気圧の谷となる日が続く。

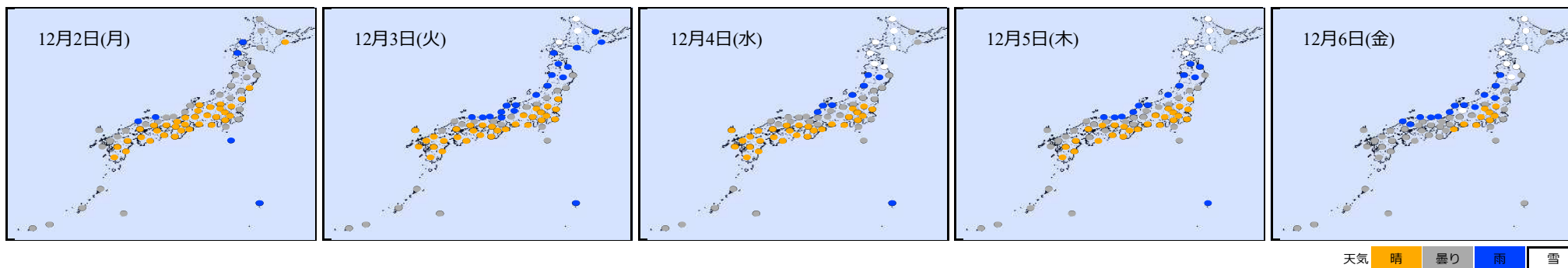
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 12月2日から3日にかけて、発達する低気圧や前線の影響で北日本を中心に荒れた天気となる。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

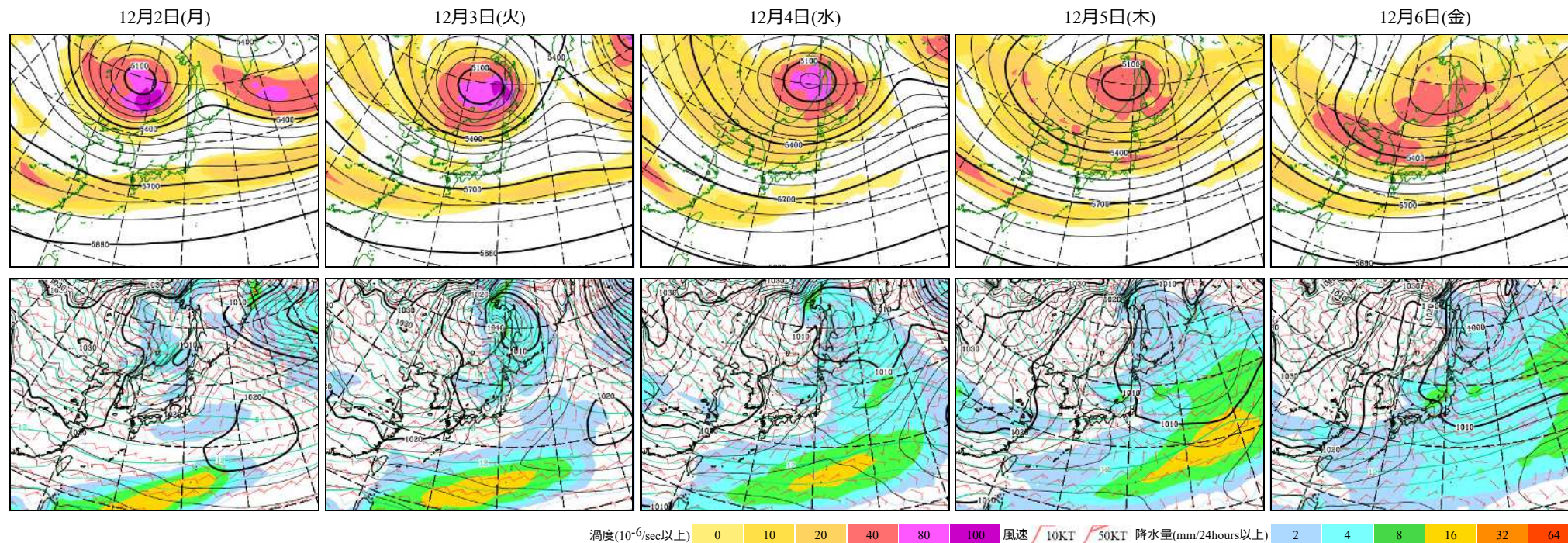
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

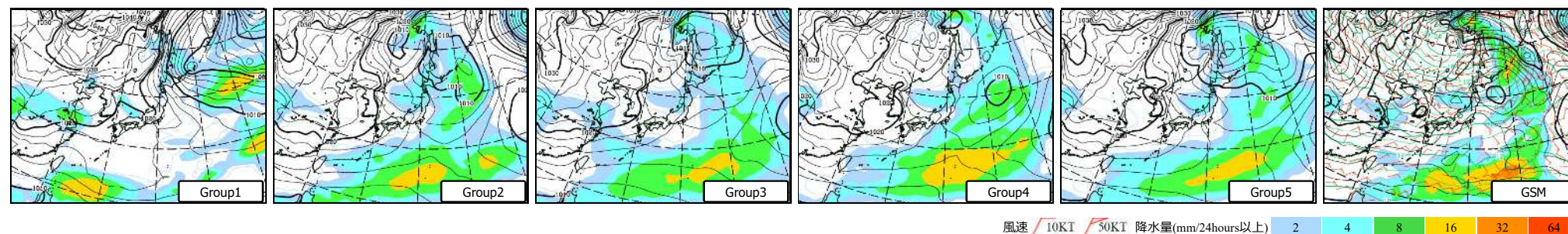


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れる日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月4日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはないが、12月4日以降は5400m付近のトラフが深めになった。地上の気圧配置の予想も大きな初期値変わりはない。
- 12月3日までは、各モデルとも初期値変わりが小さく、予想は揃っている。4日以降は寒冷渦の振る舞いが初期値変わりしたモデルもあり、ばらつきが大きくなった。
- 4日は、GSM以外のモデルは関東の南に気圧の谷がのびる予想となっている。ENSは、関東の南に気圧の谷を予想するメンバーが多い。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。